

研究・調査報告書

報告書番号	担当
118	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol and Risk of Mortality in Patients With Traumatic Brain Injury 外傷性脳損傷の患者におけるアルコールと死亡リスク	
執筆者	
Shandro JR, Rivara FP, Wang J, Jurkovich GJ, Nathens AB, MacKenzie EJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Trauma. 2009 Jun;66(6):1584-90.	
キーワード	
アルコール、外傷性脳損傷、酩酊	
要 旨	
背景： 外傷性脳損傷のアウトカムにおいて、実験研究や臨床研究では、アルコールによる影響については矛盾した所見が得られている。この研究の目的は、包括的な外傷データベースを用いて、血中アルコール濃度が外傷性脳損傷の患者における死亡率と関連があるかどうかを決めることである。	
方法： 研究デザイン：コホート研究。セッティング：アメリカ合衆国の 8 つの外傷センターおよび 51 の非外傷センターで行った。患者： 18 歳から 84 歳までの 1529 人で、2001 年 7 月から 2002 年 11 月までに外傷性脳損傷で入院した患者とした。暴露：病院の救急部で評価された血中アルコール濃度とした。アウトカム：受傷後 90 日目および 365 日目の院内死亡率とした。	
結果： 交絡変数を調整後、血中アルコール濃度によって、90 日目および 365 日目の死亡率に有意差は認めなかった。	
結論： 外傷の重症度を調整後、アルコール酩酊は外傷性脳損傷後の死亡率の有意な低下に関連がなかった。より高い血中アルコール濃度で死亡率がより低くなるという傾向が見られたが、これらはアルコールと外傷性脳損傷との複雑な相互作用についての疑問を投げかけ、そしてアルコールによる保護効果の可能性についての更なる研究を保証する。	